

イデックスオイルレポート ~For a week~

2023/2/3作成 (株)新出光

【概況】<世界経済の先行き不安～原油・燃料油在庫増による影響>

●27日、この日の外国為替市場では、対ユーロでドル高が進行。ドル建て商品の割高感につながり、原油の売りが広がりました。また、前日まで続伸していた反動から週末を前に利益確定の売りも出やすく相場は79.68ドルへ反落しました。一方、中国では厳格な新型コロナウイルスの防疫措置を解除する動きが進んでいます。消費大国の米中両国でエネルギー需要が上向くと期待感が出てきそうです。

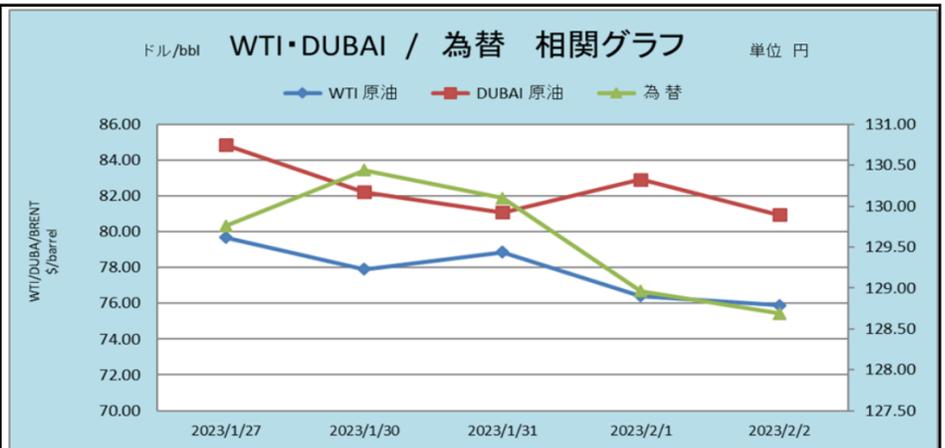
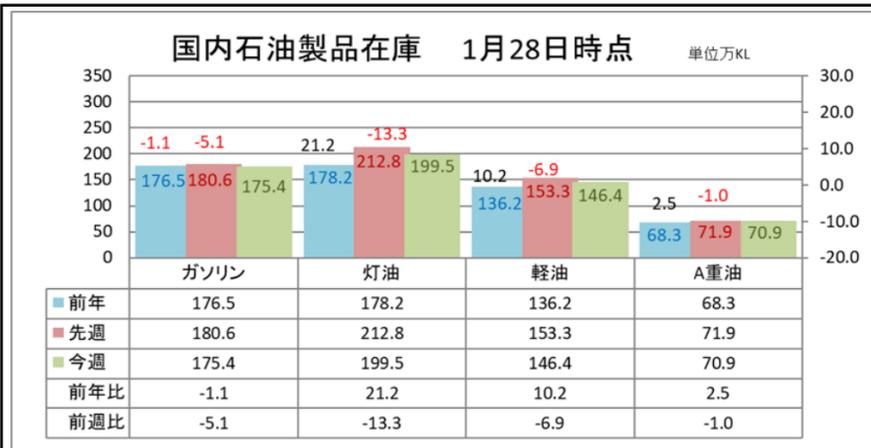
●30日、米連邦公開市場委員会(FOMC)を翌1月31日～2月1日に控え、市場では連邦準備制度理事会(FRB)が0.25%の追加利上げに踏み切るとの見方が大勢を占めています。また、今週後半に開催される欧州中央銀行(ECB)の定例理事会とイングランド銀行(英中央銀行、BOE)の金融政策会合でも追加利上げが決定されるとみられています。米欧の中央銀行による利上げ継続が見込まれる中、金融引き締めが景気減速を招くとの警戒感から投資家のリスク回避姿勢が広がり、株式と並ぶリスク資産とされる原油が売られ相場は77.9ドルへ下落しました。

●31日、中国国家統計局がこの日発表した1月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は50.1と、前月から大幅に改善し、景気の拡大・縮小を判断する節目の50を4カ月ぶりに上回りました。経済活動の全面的な再開への期待を強めるような内容だったことから、世界最大の石油輸入国である同国のエネルギー需要回復に対する楽観的な見方が広がり原油相場は78.87ドルへ反発しました。

●1日、EIAが1日午前に発表した週間在庫統計では、原油在庫が前週比410万バレル増と6週連続で増加。市場予想(40万バレル増=ロイター通信調べ)を大幅に上回りました。ガソリン在庫も260万バレル増と、市場予想(130万バレル減)に反して増加しました。統計を受けてエネルギー需給の逼迫懸念が和らぎ、売りが優勢となり相場は76.41ドルへ下落しました。

●2日、前日の米連邦準備制度理事会(FRB)に続き、欧州中央銀行(ECB)と英イングランド銀行(中央銀行)が2日、政策金利の引き上げを決定。また、朝方発表された昨年12月の米製造業受注(季節調整済み)は前月比1.8%増と、市場予想(ロイター通信調べ)の2.2%増を下回る弱い内容でした。欧米中銀の相次ぐ利上げや予想を下回る経済指標を受けて、世界経済の先行き不安が台頭。投資家のリスク回避姿勢が広がり相場は75.88ドルへ続落しました。

2月3日	16:00現在	WTI原油	75.54ドル	為替 1ドル	129.75円
------	---------	-------	---------	--------	---------



	次回元売変動予測	
	2/9～	元売変動予測
ガソリン	➡	+0.6
灯油	➡	+0.6
軽油	➡	+0.6
A重油	➡	+0.6
LSA	➡	+0.6

※原油コスト「-2.0円」OSP▲1.8含む
 ※激変緩和補助金「-15.7円」
 ※現時点での予測です。

【製品卸価格】<月末枠消化の為販売競争激化>

◀今週▶ 今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストはサウジ調整-1.8円込みで、「-1.0円」、補助金は、「-18.4円」、都合「-1.9円」の値下げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの30日時点の小売価格平均は168.1円となっております。

◀2月4日以降▶ 次回の元売り改定は、原油コストは、「-2.0円」、激変緩和補助金は「-15.7円」の見込みで、都合「+0.6円」の値上げ改定の予測となっています。今週は元売月間平均玉を持つ業者が有利で2月8日迄は販売を強化すると思われます。また、月間RIM仕入れ業者は現在のところ9日からの元売改定予測の原油コストは下がりますが、補助金が減り改定は値上げ予測の為、多少様子を見ている状況です。しかしガソリン販売については、先月同様需要が落ちていることもあり日々値下げで枠消化を進めています。灯油につきましても暖冬で後半気温が上がると予測している業者は率先して枠消化の為販売を強化する展開も予想されます。

【次世代エネルギー】<タイヤ生産工場を脱炭素化、住友ゴムの水素利用法>

住友ゴム工業は白河工場(福島県白河市)において、タイヤの製造工程で大量に使用する熱(蒸気)を製造するボイラの燃料を水素に転換するシステムを2023年1月より稼働。従来、燃料に使用していた重油や天然ガスを、二酸化炭素(CO2)を排出しない水素に転換。工場の脱炭素の取り組みを加速します。

タイヤは部材の材料を成形し、熱と圧力で「加硫」する化学反応を経て製造する。加硫工程には大量の蒸気が必要だが、これまでは重油、天然ガスを燃料に熱を供給してきました。これを、貯蔵設備とボイラを工場に導入し、水素に転換する。燃料の水素は近隣の郡山市の化学工場から調達し1時間あたり時間100立方メートルの水素を燃焼させます。

今回は開発中の革新的なタイヤ製造システム「NEO-T01」の加硫工程に水素由来の蒸気を供給する。同工場では年間5万4000キロリットル(原油換算)のエネルギーを消費しており、今回の水素利活用事業では全体の1%程度が水素エネに置き換える計算。「30年にCO2排出量を17年比50%削減、50年にゼロを目指しており、水素への転換を進める」との事。今後、規模の大型化や白河工場全体への拡大、国内外の工場への導入も検討しているとの事です。

[出典]

① <https://newswitch.jp/p/35018>